

他者と共によりよく生きることを学ぶ道徳教育
～自ら考え、学びあう学習活動の工夫～

南会津町立館岩中学校 教諭 星 恒光

1 研究の趣旨

本校の生徒の多くは、中学校を卒業すると親元を離れて高校に通学する。「自立」を控えた本校の生徒たちに必要なことの1つに、「仲間と共によりよく生きていこうとする人間性」があると捉えている。また、自分の考えに自信をもつこと、他者の意見を取り入れてよりよい行動を自ら決めていくことも大切であると考えます。

学習指導要領解説には「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』、『議論する道徳』へと転換を図るものである」と示され、子どもたちが自ら考え、理解し、主体的に取り組む学習を一層促すことや、ねらいに即して話し合いや問題解決的、体験的な学習などを適切に取り入れることが求められている。

以上の点を踏まえて次に述べるような仮説を設定し、本主題に迫った。

道徳の授業のねらいに迫る学習活動において、自分なりの考えをしっかりとめさせるとともに、学びあいを通して様々な考えに触れさせ、各自の考えの変容や成長を認識させる場面を設定することにより、他者と共によりよく生きることを効果的に学ぶことができるであろう。

2 研究の概要

(1) 研究の視点

研究主題にせまるために、仮説をもとにした次の4つの視点を設定し、全教員による授業実践を中心に研究を行った。

- ① 題材に対して、生徒一人一人に自分の考えをもたせる工夫
- ② 他者との考えを共有し、様々な考えに触れる学習活動の工夫
- ③ 生徒一人一人の考えの変容や成長を認識できる場面の設定
- ④ ねらいに迫ることができるような発問の工夫

(2) 研究の内容

生徒たちへの話し合いのさせ方の工夫や教師の発問の工夫、多様な指導方法への取組、相互授業参観や教師同士の意見交換等によって効果的な道徳指導について研究していった。また、大学の先生から指導をいただいたり、先進校視察の中で学んだりしたことを、積極的に授業の中に取り入れて自校化を図っていった。

- ① 生徒の実態把握と道徳意識調査の分析
- ② 研究の視点の具体化
- ③ 全教員による検証授業（担任、副担任、校長、教頭）
- ④ 道徳意識調査の変容分析
- ⑤ 成果と課題の共有と今後の授業づくりに向けて

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 自分なりの考えをしっかりとめさせるためには、生徒たちが教師の発問を自分事ととらえることが必要であり、生徒の教材への理解と教材を活かした発問の工夫が大切であることが見えてきた。
- ② 学び合いを充実させ、様々な考えに触れさせるためには、発問の工夫のほかに、話し合いの方法を明確に提示するとともに、日頃から話し合いに慣れさせることが重要であることがわかった。
- ③ 全教員による相互授業参観を行い、話し合いの方法や学習形態で効果的であったものを共有しそれぞれの授業に取り入れ、改善点を次の検証授業に活かすことができた。また、生徒たちは自分の意見やその根拠をもっての話し合いにも慣れ、深い学びにつながられるようになった。

(2) 課題

より深い道徳の学びへとつなげるためには、発問構成を吟味したり、板書等を工夫したりして、思考の流れをつくり、ねらいから逸脱しないような学習活動を行うことも重要である。